

向上心が、
原動力。

大学院 看護学研究科

看護学専攻 博士前期・後期課程

Setsunan University Graduate school Nursing Doctor's Course

2026年度大学院案内

学びのその先へ
2026年4月 未来を切り拓く
博士課程へ進化！



大学院看護学研究科 概要

看護学研究科長のあいさつ

2026年4月、摂南大学大学院看護学研究科に博士後期課程を新たに開設します。同時に従来の修士課程を博士前期課程へと課程変更し、新たな大学院研究科として再編します。看護学の学術的発展と、実践に還元できる知の創造を目指す本研究科にとって、この再編は大きな一歩となります。

医療や看護を取り巻く社会環境は多様化・複雑化しており、実践力に加えて、課題を科学的に捉え、解決に導く研究力がこれまで以上に求められています。本博士課程では、看護学の専門性を基盤に、関連する多分野の学問を学び、学際的かつ実践的な研究を推進できる人材の育成を目指します。

博士課程は、自ら問いを立て、探究し、社会に新たな知を提示する挑戦の場です。皆さんが関心を深め、地域や国際社会に貢献できる研究者として、成長されることを期待し全教員で支援していきます。

共に看護学の未来を切り拓いていきましょう。



看護学研究科長
鎌田 佳奈美

ディプロマ・ポリシー(DP:学位授与の方針)

【博士前期課程】

- DP1** 医療・看護・保健の課題を理解し、これに対応するための幅広く高度な知識を有している。
- DP2** 医療・看護・保健の課題を解決することができる科学的・理論的思考力・創造力を有している。
- DP3** 医療・看護・保健の課題に関心を深め、高い倫理観をもって社会に貢献するための強い意欲を有している。
- DP4** 医療・看護・保健に関するチームリーダーとしての高度な実践力および研究遂行能力を有している。

【博士後期課程】

- DP1** 医療・看護・保健の課題を解決するため、看護学の高度で深い専門知識および関連する多様な分野の知見を有している。
- DP2** 医療・看護・保健の課題の解決に必要な情報収集・分析能力、解決策の立案能力ならびに卓越した科学的・理論的思考力、創造力を有している。
- DP3** 医療・看護・保健への課題に対し、高い倫理観をもって積極的に解決する意志を示し、看護学の発展に貢献する強い意欲を有している。
- DP4** 医療・看護・保健に関する課題解決に向けた高度な実践力、学術的に価値のある高度な研究を自立的に遂行し、研究成果を高度に言語化し論述する能力、さらにその研究成果を発表する能力を有している。

アドミッション・ポリシー(AP:入学者受入れの方針)

【博士前期課程】

- AP1** 医療・看護・保健に関わる専門分野の基礎的な知識を有している。また、看護資格を有している。
- AP2** 医療・看護・保健に関わる幅広い視点と柔軟な思考や科学的・論理的思考力を有している。
- AP3** 医療・看護・保健への関心や倫理的感性をもち、課題解決に向けた研究に積極的に取り組む強い意志を有している。
- AP4** 他者やチーム内で調整できるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を有している。

【博士後期課程】

- AP1** 医療・看護・保健に関わる専門分野の高度で深い知識を有している。
- AP2** 医療・看護・保健に関する多角的な視点と高度な研究遂行に必要な科学的・論理的思考力を有している。
- AP3** 医療・看護・保健への関心や倫理観をもち、課題解決に向けた研究遂行に主体的に取り組む姿勢を有し、地域社会に貢献する強い意志を有している。
- AP4** 研究成果を言語化し論文としてまとめる能力と、学会などで発表できるプレゼンテーション力を有している。

博士前期課程

●看護学特別研究テーマ 教育課程は「共通科目」と「専門科目」から構成されています。

基盤・療養支援 看護学領域

地域社会で療養生活を送る対象者とその家族に対し、生活の場、健康レベルに応じた質の高い看護を探究する



地域・次世代発達支援 看護学領域

地域で生活する個人、家族、集団、地域を対象とした健康保持増進、発達促進を目指し、質の高い看護を探究する

基盤・療養支援看護学領域

佐久間 夕美子 教授【基盤実践看護学分野】

女性のライフステージにおける様々な健康課題に関する研究のほか、看護学教育、多職種協働など、幅広い内容を研究テーマとして扱い、量的研究または質的研究方法を用いた一連の研究指導を行う。

✉ yumiko.sakuma@nrs.setsunan.ac.jp

小堀 栄子 教授【基盤実践看護学分野】

日本在住の移民を対象に、健康の実態解明、阻害要因、維持・増進など、移民の健康に関する事象を広く扱う。主に疫学的手法を用いた研究指導を行う。必要に応じてそれ以外の手法の指導も行う。

✉ kobori@nrs.setsunan.ac.jp

稲垣 美紀 教授【療養支援看護学分野】

急性・重症患者や周術期患者の看護、循環器疾患患者の看護を研究テーマとして扱う。看護実践から見出した課題から研究テーマを明確にし、量的研究または質的研究方法による一連の研究指導を行う。

✉ miki.inagaki@nrs.setsunan.ac.jp

松田 千登勢 教授【療養支援看護学分野】

病院、施設、地域で療養生活する高齢者・家族、認知症高齢者への看護、介護予防、施設におけるリスクマネジメント、高齢者看護における多職種連携などを研究テーマ・研究課題として扱う。量的研究または質的研究方法による一連の研究指導を行う。

✉ citose.matsuda@nrs.setsunan.ac.jp

森谷 利香 教授【療養支援看護学分野】

慢性病、特に神経難病を持つ対象の理解やQOLの維持・向上のための看護、および、これらの対象を支える看護職者が抱える課題等を研究テーマとして扱い、質的研究、量的研究を用いた一連の研究指導を行う。

✉ moriya@nrs.setsunan.ac.jp

地域・次世代発達支援看護学領域

田中 結華 教授【地域支援看護学分野】

療養生活を送る患者の看護、ストーマ保有者の看護を研究テーマ・研究課題として扱う。看護実践から見出した研究課題を明確にし、量的研究または質的研究方法による一連の研究指導を行う。

✉ y-tanaka@nrs.setsunan.ac.jp

富永 真己 教授【地域支援看護学分野】

看護師や介護職といった医療・保健・福祉産業やIT産業で働く人々の離職と職場環境、さらに地域の人々の心身の健康の保持増進、疾病の早期発見・早期治療、社会復帰、生活の質の向上などをテーマとした量的・質的研究についての一連の研究指導を行う。

✉ maki.tominaga@nrs.setsunan.ac.jp

眞野 祥子 教授【地域支援看護学分野】

精神障害者の社会復帰支援・地域生活支援のための研究、母親の育児ストレス軽減・メンタルヘルス向上を目指し、情動、認知、愛着、養育態度、親子関係などをテーマとした研究の指導を行う。

✉ mano@setsunan.ac.jp

鎌田 佳奈美 教授【次世代発達支援看護学分野】

あらゆる健康段階のこどもの家族に対する養育支援、こども虐待予防・早期発見と家族への養育支援および看護者への支援をテーマとし、質的・量的研究方法による一連の研究指導を行う。

✉ kamata@nrs.setsunan.ac.jp

池田 友美 教授【次世代発達支援看護学分野】

病気や障がいのある子どもとその家族に対して、生活の場で提供される看護実践の研究動向を学修し、子どもと家族が本来もっている力を最大限に発揮できる看護実践のあり方、課題解決の方策を探究するための研究指導を行う。

✉ ikeda@nrs.setsunan.ac.jp

井田 歩美 教授【次世代発達支援看護学分野】

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点に基づき、各ライフサイクルにおける女性を中心にパートナーおよび家族への健康支援に関する実践的ケアの探究に向けて量的・質的研究およびテキストマイニングを用いた研究指導を行う。

✉ ayumi.ida@nrs.setsunan.ac.jp

事前相談について

●出願期間前に、志望する専攻分野・専攻領域の研究指導担当教員に必ず相談してください。研究指導担当教員への相談については、上表の各教員のメールへお問い合わせください。全般的なことや志望分野が決まっていない場合は、看護学研究科事務室[TEL:072-807-6001]までお問い合わせください。

博士後期課程

●特別研究テーマ

教育課程は「共通科目」と「専門科目」から構成されています。

基盤・療養支援

看護学領域

地域社会で療養生活を送る対象者とその家族に対し、生活の場、健康レベルに応じた質の高い看護を探究する



地域・次世代発達支援

看護学領域

地域で生活する個人、家族、集団、地域を対象とした健康保持増進、発達促進を目指し、質の高い看護を探究する

基盤・療養支援看護学領域

佐久間 夕美子 教授

質の高い看護を提供するための基盤となる看護学教育、女性の生涯にわたる健康支援のあり方について、関連学問分野も含めた諸理論および方法論を広く探求し、自律して研究課題に取り組めるよう研究指導を行う。

✉ yumiko.sakuma@nrs.setsunan.ac.jp

小堀 栄子 教授

移民の健康について、日本在住タイ人を対象に研究を行っている。これまでに、移民は日本に長く住むと健康を失う傾向があることが明らかになってきている。この現象をより科学的に検証し、移民の健康損失予防と健康の維持・増進に資するエビデンス構築を目指す。

✉ kobori@nrs.setsunan.ac.jp

稲垣 美紀 教授

急性・重症患者や周術期患者の看護、循環器疾患患者の看護を研究テーマとして扱う。これまでに学生自身が実施した研究結果から見出した課題について、国内外の文献を踏まえて研究テーマを明確にし、量的研究方法による研究指導を行う。

✉ miki.inagaki@nrs.setsunan.ac.jp

松田 千登勢 教授

病院、施設、地域など様々な場で療養生活を送る高齢者・家族、認知症高齢者に対する看護とその人々のケアに携わる看護職者に関する研究。

✉ citose.matsuda@nrs.setsunan.ac.jp

森谷 利香 教授

神経難病を持つ対象の理解やQOLの維持・向上のための看護、および、これらの対象を支える看護職者の抱える課題等を研究テーマとする。看護学の理論と実践の深い理解ならびに、看護学の発展に寄与できる研究を自立して行えるよう指導する。

✉ moriya@nrs.setsunan.ac.jp

地域・次世代発達支援看護学領域

田中 結華 教授

地域で暮らす人々への支援に関する研究、オストメイトへの支援を研究テーマ・研究課題として扱う。深い対象理解と看護実践から見出した研究課題を明確にし、体系的に研究が発展できるよう、量的研究または質的研究方法による一連の研究指導を行う。

✉ y-tanaka@nrs.setsunan.ac.jp

富永 真己 教授

医療・保健・福祉産業をはじめとする労働者の労働職場環境（例：心理的安全性）や職業性ストレスと健康・心理面・行動面（例：離職）、職場復帰支援、職業的幸福感、外国人労働者等、をテーマにした量的・質的研究、無作為化比較試験の研究指導を行う。

✉ maki.tominaga@nrs.setsunan.ac.jp

眞野 祥子 教授

精神障害者の社会復帰支援・地域生活支援のための研究、母親の育児ストレス軽減・メンタルヘルス向上を目指し、情動、認知、愛着、養育態度、親子関係などをテーマとした研究の指導を行う。

✉ mano@setsunan.ac.jp

鎌田 佳奈美 教授

こども虐待予防に向けた家族支援プログラムおよび次世代に対する虐待予防教育プログラムの構築とその評価に関する研究、虐待対応にかかわる医療職のメンタルヘルスに関する研究をテーマとし、量的・質的および混合研究の手法を用いて一連の研究指導を行う。

✉ kamata@nrs.setsunan.ac.jp

池田 友美 教授

病気や障がい子どもとその家族の発達に与える影響を理解し、学校や地域社会での支援方法を検討する。特に、発達障害や重症心身障害のある子どもに焦点を当て、彼らと家族の生活の質（QOL）や課題を明確にし、生活の場における支援策を考究する。

✉ ikedai@nrs.setsunan.ac.jp

井田 歩美 教授

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの理論的枠組みに基づき、各ライフコースにおける女性を中心にパートナーおよび家族への健康支援の実践構造を、量的・質的研究およびテキストマイニングによる混合的手法により理論化・モデル化し、実証的に検証するための研究指導を行う。

✉ ayumi.ida@nrs.setsunan.ac.jp

事前相談について

●出願期間前に、志望する専攻分野・専攻領域の研究指導担当教員に必ず相談してください。
研究指導担当教員への相談については、上表の各教員のメールへお問い合わせください。
全般的なことや志望分野が決まっていない場合は、看護学研究科事務局[TEL:072-807-6001]までお問い合わせください。

● 教育課程

● 必修科目 ● 選択必修科目 ■ 講義科目 ■ 演習科目

博士前期課程

1年次 前期		1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
共通科目	● 看護学研究 / 臨床看護倫理 フィジカルアセスメント特論 臨床推論特論 医療経済特論 / 看護教育特論 疫学・保健統計学特論	多職種連携演習 薬物治療学特論 看護人間工学特論 国際保健学特論		
	地域医療防災演習			
専門科目	基盤・療養支援看護学領域			
	● 基盤実践看護学特論 療養支援看護学特論	● 基盤実践看護学演習 療養支援看護学演習	● 基盤実践看護学援助特論 療養支援看護学援助特論	
	地域・次世代発達支援看護学領域			
	● 地域支援看護学特論 次世代発達支援看護学特論	● 地域支援看護学演習 次世代発達支援看護学演習	● 地域支援看護学援助特論 次世代発達支援看護学援助特論	
研究科目		● 看護学特別研究		

- ① 共通科目は、看護学における研究、倫理、教育及び疾患の病態等の基礎的知識を学び、学際的視点を持って看護の課題に取り組む能力を育成します。
 ② 専門科目は、専攻する領域の人々への支援に必要な概念や理論について学びを深め、看護学研究を推進する能力を育成します。
 ③ 多職種連携演習や災害研修等を通して、地域医療を担えるリーダーの育成し、看護人間工学や医療経済等の学際的視野を持ち合わせて看護を実践し、研究を推進する能力を育成します。

履修方法：(1) 専攻する領域のうち選択した専攻分野の「看護学特論(2単位)」「看護学演習(2単位)」「看護学援助特論(2単位)」の計6単位、共通科目から「看護学研究(2単位)」を含む16単位、「看護学特別研究(8単位)」の合計30単位以上を修得することとしています。
 (2) 本研究科の教育研究上の基本理念や目的に沿った指導のもと修士論文の作成に取り組み、修士論文の審査および最終試験を受けるものとします。
 修了要件：本大学院に2年以上在学し、所定の授業科目30単位以上を修得し、かつ、修士論文の学位論文審査に合格すること。
 開講時間：授業は主に平日6限目(18時20分～19時50分)と土曜日に開講しています。

★養護教諭の専修免許状について

養護教諭一種免許状を取得している者で、博士前期課程の「看護学研究」および「看護学特別研究」を除く科目のうちから、24単位以上修得することで『養護教諭 専修免許状』を取得できます。【現在、教職課程認定申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開講時期等が変更となる可能性があります。】

博士後期課程

1年次 前期		1年次 後期	2年次 ～ 3年次
共通科目	● 看護学研究方法特論	● 看護実践応用特論	
	基盤・療養支援看護学領域		
専門科目	● 基盤・療養支援看護学特論	● 基盤・療養支援看護学演習	
	地域・次世代発達支援看護学領域		
	● 地域・次世代発達支援看護学特論	● 地域・次世代発達支援看護学演習	
研究科目		● 特別研究	

- ① 共通科目は、看護学における知識と理解を深め新規性と発展性のある研究に必要な能力や現場の課題解決や実践に変化をもたらす開発や実装研究について考察できる能力を育成します。
 ② 基盤・療養支援看護学領域の専門科目は、臨床判断と患者の意思決定における援助プログラムの開発や看護実践評価方法について探究し、医療・看護の課題を追求、解決するための能力を育成します。
 ③ 地域・次世代発達支援看護学領域の専門科目は、地域保健プログラムの効果や対象者を支援するケア提供者の実践力を高めるプログラム開発の効果などを評価するための研究方法、分析力、課題を解決する能力を育成します。

履修方法：(1) 専攻する領域の「看護学特論(2単位)」「看護学演習(2単位)」の計4単位、共通科目の必修3単位、研究科目の12単位の合計19単位以上を修得することとしています。
 (2) 本研究科の教育研究上の基本理念や目的に沿った指導のもと博士論文の作成に取り組み、博士論文の審査および最終試験を受けるものとします。
 修了要件：本大学院に3年以上在学し、所定の授業科目19単位以上を修得し、かつ、博士論文の学位論文審査に合格すること。
 開講時間：授業は主に平日6限目(18時20分～19時50分)と土曜日に開講しています。

●入試概要

2026年度

博士前期課程

募集人員	4人
修業年限	2年 (長期履修制度を利用する場合には3年もしくは4年)
主な出願資格	★出願資格の詳細は大学HP「摂南大学大学院学生募集要項」をご参照ください。 保健師・助産師・看護師いずれかの資格を取得(取得見込みを含む)し、次の各項のいずれかに該当する方 ①学校教育法第83条に定める大学を卒業した者または2026年3月末までに卒業見込みの者 ②個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2026年3月31日までに22歳に達する者 (入学資格審査必要) ※看護系短期大学、専修学校、各種学校を卒業・修了し、看護職として2年以上の実務経験を有する方などが該当します。学士号(大学卒業)は必須ではありません。 ※入学資格・入学資格審査等の詳細は入試部(寝屋川キャンパス TEL.072-839-9104)に直接お問い合わせください。
選抜方法	次の各項目を総合的に判定します。 【書類審査】 成績証明書 【学力試験】 ①専門科目(志望専攻分野に関する専門科目から出題) ②外国語(英語[英和辞典のみ持ち込み可。電子辞書の持ち込み不可。]) 【面接試験】 個別面接試験

博士後期課程

募集人員	2人
修業年限	3年 (長期履修制度を利用する場合には4年～6年)
主な出願資格	★出願資格の詳細は大学HP「摂南大学大学院学生募集要項」をご参照ください。 修士または専門職の学位を取得者(取得見込みを含む)し、次の各項のいずれかに該当する方 ①学校教育法第102条第1項に定める大学院を修了した者または2026年3月末までに修了見込みの者 ②個別の入学資格審査により、修士または専門職の学位取得者同等以上の学力があると認められた者で、2026年3月31日までに24歳に達する者 (入学資格審査必要) ※入学資格・入学資格審査等の詳細は入試部(寝屋川キャンパス TEL.072-839-9104)に直接お問い合わせください。
選抜方法	次の各項目を総合的に判定します。 【書類審査】 最終課程の成績証明書 研究計画書 修士論文の概要またはそれに準ずる研究報告書 (2,000字程度) 【学力試験】 外国語 (英語[英和辞典のみ持ち込み可。電子辞書の持ち込み不可。]) 【面接試験】 個別面接試験

あなたの学びをサポートします!!

- 時間を有効に活用するため、オンラインツールも利用しています。
- 長期履修制度を活用し、子育てや仕事をしながら学修している先輩もいます。
- 奨学金やTA(ティーチングアシスタント)制度を活用し、大学院での学修に専念できます。

point
1

研究指導教員が 学びを支援

履修指導

研究指導教員が、入学時に履修方法に関する相談・助言を行い、修業年限内での修了を支援します。平日18時20分から土曜日にも授業等開講しています。

長期履修制度

職業を有することや育児等の事情により、所定の修業年限内での修了が困難であるとあらかじめ見込まれ、修業期間延長を希望する場合には、「入学志願票」により申請してください。

point
2

奨学金制度

奨学金

- 摂南大学学内奨学金
(給付制/年間授業料の半額相当額)
- 日本学生支援機構奨学金(貸与制) 第一種奨学金(無利子)
【前期】月額5万円または8万8千円のうち希望する金額
【後期】月額8万円または12万2千円のうち希望する金額
第二種奨学金(有利子)
月額5万円、8万円、10万円、13万円、15万円のうち希望する金額
(注)出願資格には学力と家計の基準があります。
- 留学生対象の奨学金もあります。

point
3

TA制度

TA(ティーチング・アシスタント)制度

きめ細かい指導による授業の質向上および大学院・学部教育の活性化を目的としてTA制度を導入しています。

※「TA制度について」(文部科学省HPより)
優秀な大学院学生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対するチュータリング(助言)や実験、演習等の教育補助業務を行わせ、大学教育の充実と大学院学生のトレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当ての支給により、大学院学生の処遇の改善の一助とすることを目的とした制度。

point
4

科目等履修生 制度

科目等履修生制度で修了要件に必要な単位の先取りが可能。科目等履修生として修得した単位は、大学院入学後、該当科目の単位を修了要件に換算することができます。
【前期課程のみ】

point
5

研究費用も 含んだ学費

学費には、研究に係るフィールドワーク実習費も含まれます(交通費は対象外)
※学費は、学生募集要項をご確認ください。

●修了生の声

黄 開運さん (摂南大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 2022年3月修了)

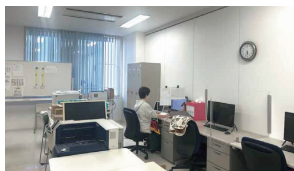
回復期リハビリテーション病棟で看護師として4年間働き、様々な体験をしました。その中で、「その人らしさを支える」「安全に地域で生活する」これが一番だと思っています。患者さんの回復過程を支える中では、看護師の日々のケアやチーム医療の重要性を痛感し、同時に自分の知識不足を実感しました。質の高い看護ケアが提供でき、もっと老年看護についての知識や看護研究を学びたいと思い、摂南大学看護学研究科に入学しました。

摂南大学看護学研究科に入学し、週末の仕事と平日の学校生活を両立していました。また、奨学金制度が充実している大学で、経済面の心配がありませんでした。大学院では、老年看護の諸理論からチーム医療の現場見学まで幅広い知識の学習や体験ができ、高い看護実践力を身につけることができました。さらに、大学院での研究活動を通して、研究の分析方法などを深く勉強できました。

●院生学内外の様子



基礎看護学実習室



大学院研究室



実験研究の様子



院生の学会発表

